【原著論文】



# ブラジルにおける日系人に対する日本語教育の変遷

## ―学習経験者の調査結果―

伊志嶺　安博
大学院生
広島大学大学院国際協力研究科
〒739-8529 広島県東広島市鏡山1-5-1
E-mail: ishimine-yasuhiro@hiroshima-u.ac.jp

### 1. 研究の目的

日本とブラジルの間には就労を目的にした人的移動があり，そこには児童の教育問題がある．日本からブラジルへの人的移動は1908年から1970年ごろまで行われた契約労働者としての日本人集団移住で，ブラジルから日本への人的移動は1990年に規制が緩和された日系人就労による日系ブラジル人集団移住である．いずれも渡航先国の労働力需要によるものなので，景気の悪化などで長期滞在化することも，帰国することもある．海外移住者は滞在が伸びると滞在意識も「短期滞在」から「長期滞在」，そして「永住」へと変化する（前山1996, 211）．この意識の変化は移住者家族の児童に対する教育を，保護者の移住元への帰国のための教育から移住先への定住のための教育へと変化させる．

本研究は，日本人移住開始から100年の歴史があるブラジルの日系人社会で続けられてきた日本語教育の変容過程に注目し，教育方針を転換させてきた教育者側とそれを受け入れてきた学習者側の両面からその特徴を明らかにすることを目的とする．そのために，教育者側によって語られてきた教育観と教育実態と，学習経験者に対する調査結果による学習者側からの教育観と教育実態とを突き合わせて考察する．これは，外国に長期滞在する児童に対する言語教育の変容過程の究明に意義がある．

### 2. 先行研究

ブラジルの日本語と日本語教育は，日本人移住者がブラジルに集団移住をして「新しい生活世界や文化のあり方を創造する上での，一つの有力な実践の道具（手段）」（森2006, 35）だった．

第二次世界大戦前の日本語教育観は「日本とブラジルという二つのナショナリズムの圧力の〈狭間〉というポジションにあった一世たちが二つの国家との交渉のなかで立ち上げてきた子弟（教育）観」だった（森2006, 17）．日本人として教育するか，ブラジル人として教育するかという議論，いわゆる「日主伯従」主義による教育か「伯主日従」主義による教育かという議論（森脇2008, 223）だった．そして，戦後しばらくブラジルの日系人生活共同体「日系コロニア[1]」内は混乱するが，その後の教育令の緩和によって戦後の日本語教育は「移民一世（日本人永住移住者）による日系ブラジル人（エスニック日本人）養成運動」（森2006, 28）として復活することになる．その後，日本からの研究者の（権威をもった）言説に強い影響を受けて「真正なる（日本の）日本語教育」が志向されるようになり（森2006, 29），「継承語としての日本語」から「外国語としての日本語」，言いかえると「文化伝承」のための日本語教育から「文化普及」のための日本語教育に移行した（森2006, 34）．つまりブラジルの日

広島大学大学院国際協力研究科『国際協力研究誌』第16巻第2号，2010年，pp. 153-169

本語教育は，「エスニック日本人としてのアイデンティティ構築」という「ブラジルの日本語教育の特殊性」が随伴された（森2006, 34-35）「日系人教師（教員）」と「父兄（保護者）」の心情が反映された教育である．

この教育観における問題は，ブラジルの日本語教育が保護者や教員の心情で立ち上げられたものなら，日本人としての児童教育から「日系ブラジル人養成運動」としての日本語教育，そして「真正なる日本語教育」へという教育方針の転換が，その教育を受ける日系人日本語学習経験者にとって必要な方針転換だと考えていたのかである．

また，学習者の世代変化に対応するように日本語教科書も変化してきた．日系人の日本語学習者は1970年代に二世から三世に逆転し，1990年代には四世が現れて，日本語は生活言語として機能しない状況に変化した（中東2007, 93-94）．教科書も第二次世界大戦終戦直後は戦前の日本国定国語教科書が使用されていたが，1961年からは全12巻のコロニア語教科書が普及していった．そして，1980年代以降，日本の戦後検定国語教科書も使用されていたが，現在では「外国語としての日本語教育」の会話テキストや日本の外国人向け教科書が使用されるようになっている（中東2007,95）．

今後もしばらくは日系社会主導の日本語教育が展開されることが予想されている（中東2007, 98）．国際交流基金日本語国際センター（2000, 16-17）も「ブラジルの日本語教育に求められている課題」として「継承語教育から外国語教育への転換」を挙げている．日系人のための日本語教育[2]が主流だった日本語教育は，ブラジル人のための，外国語としての日本語教育への転換が求められている．

今後を考える上で明らかにすべき問題は，戦後，教育方針が変化する中，教科書使用の実態はどうだったのかという点である．コロニア教科書の作成が日系ブラジル人養成を目的にしていたなら，教科書で学習者に教育方針転換の意図が伝えられたと考えるからである．教科書使用の実態調査によっては使用教科書の確認だけでなく，学習環境や日本語教育観についても明らかにする必要がある．

以上の２点の先行研究による問題点を究明するために，ブラジルの日本語学習経験者に対して教育実態の確認と日本語教育への意識を調査した結果から考察を行う．ブラジルの日本語学習経験者に対する調査には第二次世界大戦前の日本語学習経験者を対象としている小島（2002）もあるが，本研究では戦前から戦後に亘る教育実態と学習経験者の意識を知るための調査を行なった．

## 3. 調査方法

### 3.1. 対象

ブラジルの日本語教育の変遷と学習者意識を調査するため，世代的にも地域的にも幅広い日本語学習経験者を対象にする必要があったが，調査経費や移動時間などに限界がある個人調査のため，多肢選択方式による質問紙調査を行なった．

調査対象者は，ブラジルで日本語を学習したことのある日系人に限定した．その理由は，ブラジルの日本語教育には日系人児童の学習者が多いからである．サンパウロ人文科学研究所（1997）が行った日本語学校[3]に対するアンケート調査によると，非日系人の学習者がいない日本語学校は36.7％（139校中[4] 51校）で，生徒[5]（学習者）数の１割未満の学校が30.9％（139校中43校），２割未満の学校が20.9％（139校中29校）であり，ほとんどの学校では学習者の８割以上が日系人である（サンパウロ人文科学研究所1997, 3-4）．

ブラジルの日系人における日本語学校通学経験者[6]は54.1％（6,073人中3,283人）に上る（サンパウロ人文科学研究所2002, 113）ほど高い．この調査対象者を世代別に見ると，二世が65.7％（6,073人中3,990人）と最も多く，次いで三世が24.5％（6,073人中1,487人）である（サンパウロ人文科学研究所2002, 110）．

現在，ブラジルの日系人口は150万人[7]といわれ，ブラジルの総人口１億８千６百７万５千人（2005年）[8]の１割程度になる．世代別人口の減少は，平均寿命を80歳とすると，1908年から1970年までに移住した日本人移住者第一世代[9]（25万人）は1960年前後から減少を始めて，二世（54.0万人）は1990年前後から減少を始めることになる．そして今後は，1950年ごろから出生してきた三世（116.64万人）からの世代が日系社会で多数を占めていくことになる．これは中東（2007, 93-94）とも合致する試算で

ある.

### 3.2. 手続き

調査方法は，調査者が配布した質問紙を調査対象者が回答し，調査者が回答票を直接回収，または調査協力者が回収した回答票を調査者に郵送するという方法を採った．本調査は調査者の個人調査であるため，より広域な調査をめざして，電子メール（テキスト形式メールの本文による送受信とワープロソフト形式ファイル添付による送受信）による回答収集方法[10]も採用した.

調査実施時期は2007年11月から2008年１月にかけてである．2007年11月から12月にかけてサンパウロ州の日本語学校と日系人団体に「日本語学習経験のある日系人」への質問票の配布・回収を依頼し，2008年１月末日を回収期限とした.

質問票配布日と調査依頼校・団体名は次の通りである.

質問票配布日：日本語学校・日系人団体名〈所在地〉
11月12日：インダイアツーバ日本語学校〈インダイアツーバ〉
11月16日：栗の実教室〈モジ・ダス・クルーゼス〉
11月19日：ピラール・ド・スール日本語学校〈ピラール・ド・スール〉
11月20日：コロニアピニャール日本語モデル校〈サン・ミゲル・アルカンジョ〉
11月22日：ボツカツ日本語学校〈ボツカツ〉
11月25日：沖縄県人会〈サンパウロ市)〉
11月26日：ブラガンサ日本語学校〈ブラガンサ・パウリスタ〉
11月27日：スザノ金剛寺日本語学校〈スザノ〉
11月29日：アチバイヤ日本語学校〈アチバイヤ〉
12月１日：日伯文化連盟〈サンパウロ市〉
12月４日：レジストロ日本語学校〈レジストロ〉
12月５日：松柏学園（コレジオ大志万）〈サンパウロ市〉
12月６日：サウーデ日本語学校〈サンパウロ市〉

質問紙は各機関（地域）に日本語・ポルトガル語版を20部ずつ配布した．また，可能な限り電子メールによる質問紙（ワープロファイル）添付送信[10]をおこない，電子メールの返信による回答も受け付けた．最終的に集まったのは，質問紙による回答が286件と電子メールによる回答が27件の合計313件であったが，本調査は「日本語の学習経験なし」「年齢・世代・学習機関・学習開始時期」の無記入回答78件と「学習開始時期」の複数回答10件を対象外とした225件を有効回答とした．有効回答率[11]は71.88％である.

回答はサンパウロ州外[12]からもあり，日本在住者からの回答もあった．質問紙の現住所欄が無記入の回答もあったが，日本語学校や日系人団体の回収分だったので，回収機関所在地の在住者による回答と見なした．最終的にほとんどの回答はサンパウロ州在住者からだったが，日系ブラジル人がサンパウロ州に集中していることや他州は戦後移住者が多く日本語学校の規模も小さいことから，調査対象地域は妥当だったと思われる.

### 3.3. 質問項目

質問紙（参考資料「アンケート調査票」日本語版・ポルトガル語版）における質問項目は，属性項目が「性別・年齢・職業・現住所・世代・使用言語・学習経験」で，学習経験者への質問項目が「学習機関・学習開始時期・学習期間・教師の使用言語・授業時間・授業レベル・使用教科書・主要養成技能・学習効果（授業に対する評価）・今後の課題」である.

自由回答形式は採用せず，多肢選択形式（単数回答・複数回答）を採用した．属性項目と質問項目「授業に対する評価」は単数回答にしたが，これら以外の項目は複数回答にした.

質問項目「学習教育機関」・「学習開始時期」・「学習期間」を複数回答にした理由は次の通りである.

・日本語学校や私塾の学習後，進学や就職，退職後に再開する場合がある
・ブラジルでの学習後，日本で再開する場合がある

質問項目「教師の使用言語」を複数回答にした理由は次の通りである.

・転校によって担当教員が変わる
・授業によって担当教員が変わる
・進級によって担当教員が変わる

質問項目「授業時間」を複数回答にした理由は次の通りである.

・学校によって授業時間が違う
・進級などによって授業時間が変わる

質問項目「授業レベル」を複数回答にした理由は次の通りである.

・言語能力（読・書・話・聞）別の授業が設けられている場合がある
・学習を再開した場合，中断時の段階の前後から再開した場合がある

質問項目「使用教科書」と「学習の中心技能」を複数回答にした理由は次の通りである.

・言語能力別に異なる教科書を使用する場合がある
・段階別に異なる教科書を使用する場合がある

そして，質問項目「これからのブラジルの日本語教育に必要なこと」では歴史的に日本式児童教育から継承語教育，そして外国語教育としての日本語教育へ変化してきた時代背景を考慮した．項目１）から４）は今後の日本語教育の方針に関する設問で，項目５）で高等教育における専門性の必要を問う設問である．項目６）は日系ブラジル人としてのアイデンティティ構築を目指す必要性，項目７）はルーツとは異なる現代日本や日本文化の本質的な理解の必要性を問う設問である．最後に1990年の日本の入国管理法改正に伴う日系人の短期就労（通称「デカセギdekassegui」）に関係がある項目８），第二次世界大戦の日本の勝敗をめぐりブラジルで起こった対立問題や各日系世代同士の理解について議論があった日本思想に対する項目９）も設けた.

## 4. 調査結果

調査結果は，まず有効回答に見られる年齢別日系世代の特徴を示して，質問項目を「学習開始時期別回答に特徴がない質問項目」と「学習開始時期別に特徴がある質問項目」に分類した.

### 4.1. 有効回答に見られる年齢別日系世代の特徴

日系ブラジル人の世代区分[13]は複雑である．戦後の呼び寄せ移住者や1952年から1970年代までの移住者である「戦後一世」が，非日系人や1908年から1941年までに移住した「戦前一世」，または「二世」と結婚する場合があるからで，「二世」や「三世」という世代を正確に定義することは難しい．そのため，「二世」や「三世」という世代の判断は回答者の自己申告に委ねることにした（表1）．回答選択肢「分からない」とは親同士の世代が異なる場合や混血の場合などの世代の判断が難しい場合に対応するために設けた選択肢であるが，この回答でも学習経験の情報を満たしていれば調査分析の対象にした.

回答における日系人の世代別回答数を年齢別に見ると，40歳代から50歳代を中心にした回答が多く，世代では二世が約半数を，三世が全体の三分の一を占める結果だった.

表１　年齢別「日系人世代」

| 年齢/世代 | 戦前一世 | 戦後一世 | 二世 | 三世以上 | 分からない | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 81～85 | 1 | | | | | 1 |
| 76～80 | | | 1 | | | 1 |
| 71～75 | 2 | | 2 | | | 4 |
| 66～70 | 2 | | 4 | | | 6 |
| 61～65 | 1 | 6 | 7 | 1 | | 15 |
| 56～60 | | 5 | 12 | 3 | | 20 |
| 51～55 | | 3 | 8 | | | 11 |
| 46～50 | | | 14 | 6 | | 20 |
| 41～45 | | 3 | 28 | 8 | | 39 |
| 36～40 | | 1 | 14 | 9 | | 24 |
| 31～35 | | 1 | 8 | 12 | 1 | 22 |
| 26～30 | | 2 | 12 | 15 | 1 | 30 |
| 21～25 | | | 9 | 6 | | 15 |
| 16～20 | | 1 | 2 | 11 | | 14 |
| 11～15 | | | | 3 | | 3 |
| 総計 | 6 | 22 | 121 | 74 | 2 | 225 |

本調査結果からは各世代の回答（標本）数が統一できないため統計的処理は行わず，学習時期別回答数によって分けてその特徴を分析する．各世代を学習開始時期別に見ると，「一世」は1950年代，「二世」は1970年代から1980年代にかけて，「三世」は2000年前後に多く日本語学習を始めたようだ（表2）.

学習開始時期別に回答内容を見る場合，1908年から1930年までの回答はなかったので，表４からの学

習開始時期別の表では1908年から1930年までを表示しない．

有効回答者の年齢と学習開始時期をまとめた（表3）．縦軸は年齢（5歳ごとに区分）横軸は学習開始時期（西暦）を示している．回答数の左が塗りつぶし部分に近ければ学習開始の年齢が低いことを示すので，回答者のほとんどが低年齢で学習を開始したことが分かる．なお，表の塗りつぶし部分は該当年齢者が誕生する前の部分である．

学習開始時期の特徴は，10歳代までの少年期に学習を開始したという回答が多いことである．しかし，60歳代と50歳代，そして30歳代という成人期をむかえてから学習を開始，または再開したという回答が見られるのも特徴的である．

**表 2** 学習開始時期別「日系人世代」

| 開始/世代 | 戦前一世 | 戦後一世 | 二世 | 三世以上 | 分からない | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1908-20年 | | | | | | 0 |
| 1921-30年 | | | | | | 0 |
| 1931-40年 | 1 | | | | | 1 |
| 1941-50年 | 2 | | 3 | | | 5 |
| 1951-60年 | 2 | 8 | 16 | 2 | | 28 |
| 1961-70年 | | 4 | 17 | 6 | | 27 |
| 1971-80年 | | 4 | 43 | 19 | | 66 |
| 1981-90年 | 1 | 3 | 22 | 12 | 1 | 39 |
| 1991-2000年 | | 1 | 10 | 13 | | 24 |
| 2001-07年 | | 2 | 10 | 22 | 1 | 35 |
| 総　計 | 6 | 22 | 121 | 74 | 2 | 225 |

**表 3** 年齢別「学習開始時期」

| 年齢/開始 | 1908-20年 | 1921-30年 | 1931-40年 | 1941-50年 | 1951-60年 | 1961-70年 | 1971-80年 | 1981-90年 | 1991-2000年 | 2001-07年 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 81~85 | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 76~80 | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 71~75 | | | | 3 | | | | 1 | | | 4 |
| 66~70 | | | | 2 | 3 | 1 | | | | | 6 |
| 61~65 | | | | | 11 | 2 | | 1 | | 1 | 15 |
| 56~60 | | | | | 11 | 3 | 1 | 1 | 1 | 3 | 20 |
| 51~55 | | | | | 2 | 5 | 2 | 1 | | 1 | 11 |
| 46~50 | | | | | | 11 | 8 | 1 | | | 20 |
| 41~45 | | | | | | 4 | 32 | 2 | 1 | | 39 |
| 36~40 | | | | | | 1 | 18 | 2 | | 3 | 24 |
| 31~35 | | | | | | | 5 | 11 | 3 | 3 | 22 |
| 26~30 | | | | | | | | 13 | 7 | 10 | 30 |
| 21~25 | | | | | | | | 6 | 4 | 5 | 15 |
| 16~20 | | | | | | | | | 7 | 7 | 14 |
| 11~15 | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 |
| 総計 | 0 | 0 | 1 | 5 | 28 | 27 | 66 | 39 | 24 | 35 | 225 |

### 4.2. 学習開始時期別回答に特徴がない質問項目

回答結果が共通していたのは，「学習機関」「教員の使用言語」「主要養成技能」である．

「学習機関」は「日本語学校」，「教員の使用言語」は「日本語」，「主要養成技能」は「読・書」能力だった．これらの質問項目に共通するのは教育方法に関する項目であることだ．

#### 4.2.1. 「学習機関」

ブラジルの日本語教育における伝統的な日本語学校「日語学校[14]・私塾」が最も多かった（表4）．

複数回答22件中にも日本語学校を含む回答が17件あった．

表４ 学習開始時期別「学習機関」

| 開始/機関 | 大学・大学院 | 高校 | 小学校・中学校 | 日語学校・私塾 | 日本 | その他 | 複数回答 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | | | | 1 | | | | 1 |
| 1941-50年 | | | 1 | 4 | | | | 5 |
| 1951-60年 | 1 | | 1 | 20 | 2 | 1 | 3 | 28 |
| 1961-70年 | | | 2 | 23 | | | 2 | 27 |
| 1971-80年 | 3 | 1 | 3 | 46 | | 6 | 7 | 66 |
| 1981-90年 | | 1 | | 28 | 1 | 5 | 4 | 39 |
| 1991-2000年 | 1 | | | 18 | 2 | | 3 | 24 |
| 2001-2007年 | | | 1 | 29 | 2 | | 3 | 35 |
| 総　計 | 5 | 2 | 8 | 169 | 7 | 12 | 22 | 225 |

#### 4.2.2. 「学習期間」

目立った特徴はないが，長期的な学習経験が多いようだ（表5）．

複数回答は全て現在学習中の回答で，「半年以下」と「二年以上」，そして「三年以上」との組み合わせ回答だった．

表５ 学習開始時期別「学習期間」

| 開始/期間 | 半年以下 | 半年以上一年未満 | 一年以上二年未満 | 二年以上三年未満 | 三年以上 | 現在学習中 | 複数回答 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | | | | | 1 | | | 1 |
| 1941-50年 | | 1 | 2 | 1 | 1 | | | 5 |
| 1951-60年 | 1 | 2 | 5 | 3 | 15 | 1 | 1 | 28 |
| 1961-70年 | | | 3 | 2 | 22 | | | 27 |
| 1971-80年 | 1 | 1 | 6 | 6 | 48 | 2 | 2 | 66 |
| 1981-90年 | 1 | 1 | 4 | 3 | 25 | 2 | 3 | 39 |
| 1991-2000年 | 1 | | 3 | 6 | 11 | 1 | 2 | 24 |
| 2001-2007年 | 2 | 3 | 8 | 6 | 9 | 2 | 5 | 35 |
| 総　計 | 6 | 8 | 31 | 27 | 132 | 8 | 13 | 225 |

4.2.3.「教員の年齢」

教員は「30歳代」から「50歳代」に多く，近年「30歳代」の教員の増加が見られる（表6）．

複数回答でも「30歳代」から「50歳代」の教員を挙げる回答が多かった．

表６　学習開始時期別「教員年齢」

| 開始/教年 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 無記入 | 複数回答 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | | | | 1 | | | | 1 |
| 1941-50年 | | | 2 | 2 | 1 | | | 5 |
| 1951-60年 | 1 | 4 | 6 | 9 | 4 | 1 | 3 | 28 |
| 1961-70年 | | 2 | 9 | 7 | 2 | | 7 | 27 |
| 1971-80年 | 1 | 10 | 15 | 18 | 3 | | 19 | 66 |
| 1981-90年 | 1 | 4 | 4 | 10 | 5 | 1 | 14 | 39 |
| 1991-2000年 | | 7 | 2 | | 4 | | 11 | 24 |
| 2001-2007年 | 1 | 14 | 4 | 1 | 1 | 1 | 13 | 35 |
| 総　計 | 4 | 41 | 42 | 48 | 20 | 3 | 67 | 225 |

4.2.4.「授業時間」

特定の傾向を確認することはできない．しかし，「毎日」が近年減少して「一週間に１～４時間」が増加しているようだ（表7）．そして，「一週間に４～８時間」は1970年代に多くの回答が見られる．

８つの組み合わせがある複数回答21件の中，６つの組み合わせ18件は前述の３項目が含まれている回答だった．

ブラジルでは初等教育普及のために午前と午後の二部制が行われてきたため，日系人は補助教育（教養知識習得）の一つとして日本語学習があった．しかし，補助教育の選択肢の多様化や経済的理由，そして日本語が生活言語ではなくなったことなどの理由から日系人の日本語学習の習慣はなくなってきたと考えられる．

表７　学習開始時期別「授業時間」

| 開始/授時 | 1-6時/1月 | 1-4時/1週 | 4-8時/1週 | 8～12時/1週 | 13～時/1週 | 毎日 | 無記入 | 複数回答 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | | | | | | 1 | | | 1 |
| 1941-50年 | | 3 | | 1 | | 1 | | | 5 |
| 1951-60年 | 1 | 7 | 6 | 1 | 1 | 9 | 1 | 2 | 28 |
| 1961-70年 | 1 | 9 | 3 | 4 | 3 | 4 | | 3 | 27 |
| 1971-80年 | 1 | 21 | 22 | 4 | 1 | 10 | 1 | 6 | 66 |
| 1981-90年 | 1 | 18 | 3 | 2 | 4 | 6 | | 5 | 39 |
| 1991-2000年 | | 18 | 2 | 1 | | 2 | | 1 | 24 |
| 2001-2007年 | 4 | 21 | 4 | | | 1 | 1 | 4 | 35 |
| 総　計 | 8 | 97 | 40 | 13 | 9 | 34 | 3 | 21 | 225 |

4.2.5.「授業レベル」

レベルの目安として「日本語能力検定試験」にある学習時間を選択肢の参考に付した．入門レベルは150時間程度，初級レベル300時間程度，中級レベルは600時間程度，そして上級レベルは900時間以上である．回答結果を見ると，「専門課程」は少ないものの，あらゆるレベルに回答が見られた．しかし，近年は「複式授業」が減少してきている（表8）．

複数回答は，入門から初級，そして初級から中級や上級までを選ぶものが多かった．

表８ 学習開始時期別「授業レベル」

| 開始/レベル | 入門 | 初級 | 中級 | 上級 | 専門講義 | 複式授業 | 無記入 | 複数回答 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | | | | | | 1 | | | 1 |
| 1941-50年 | | | 1 | | | 1 | 3 | | 5 |
| 1951-60年 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 9 | 2 | 7 | 28 |
| 1961-70年 | 3 | 2 | 3 | 3 | | 8 | 1 | 7 | 27 |
| 1971-80年 | 3 | 10 | 4 | 3 | | 28 | 5 | 13 | 66 |
| 1981-90年 | 7 | 4 | 4 | 1 | 4 | 5 | | 14 | 39 |
| 1991-2000年 | 2 | 5 | 2 | 2 | 2 | 3 | 1 | 7 | 24 |
| 2001-2007年 | 6 | 12 | 4 | 1 | | 1 | 1 | 10 | 35 |
| 総　計 | 25 | 36 | 20 | 11 | 6 | 56 | 13 | 58 | 225 |

4.2.6.「授業の評価」

中間の「良かった」という回答が最も多く，それよりいい評価が回答のほとんどを占めた．戦前一世は「大変良かった」という回答はなかったが，戦後一世からは「大変良かった」・「まあまあ良かった」と「良かった」が回答のほとんどを占める結果だった（表9）．

表９ 学習開始時期別「授業の評価」

| 開始/評価 | たいへん良かった | まあまあ良かった | 良かった | あまり良くなかった | 良くなかった | 無記入 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | | 1 | | | | | 1 |
| 1941-50年 | | 1 | 3 | | | 1 | 5 |
| 1951-60年 | 7 | 7 | 8 | 4 | 1 | 1 | 28 |
| 1961-70年 | 6 | 6 | 14 | 1 | | | 27 |
| 1971-80年 | 16 | 15 | 28 | 5 | | 2 | 66 |
| 1981-90年 | 4 | 11 | 20 | 2 | 2 | | 39 |
| 1991-2000年 | 6 | 3 | 13 | 1 | | 1 | 24 |
| 2001-2007年 | 7 | 12 | 13 | 2 | | 1 | 35 |
| 総　計 | 46 | 56 | 99 | 15 | 3 | 6 | 225 |

### 4.3. 学習開始時期別回答に特徴がある質問項目

学習開始時期ごとに分けた回答結果からは，質問項目「教員」「教員の使用言語」「使用教科書」「主要養成技能」「今後の課題」に特徴が見られた．

#### 4.3.1. 「教員」

日本語教育を担当していた教員は，「日本人」やブラジルに帰化した日本人（表中「伯帰化日本人」）が主であるが，1960年代からは「日系二世」，1990年代からは「日系三世」の教員が見られる（表10）．

複数回答でも，ほとんどの回答に日本人教員が含まれている．

表10　学習開始時期別「教員」

| 開始/教員 | 日本人 | 伯帰化日本人 | 日系二世 | 日系三世 | 非日系伯人 | その他外国人 | 無記入 | 複数回答 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | 1 | | | | | | | | 1 |
| 1941-50年 | 5 | | | | | | | | 5 |
| 1951-60年 | 24 | 1 | | | | | 1 | 2 | 28 |
| 1961-70年 | 20 | 2 | 1 | | | | | 4 | 27 |
| 1971-80年 | 53 | 3 | 2 | | | | | 8 | 66 |
| 1981-90年 | 22 | 2 | 6 | | | | | 9 | 39 |
| 1991-2000年 | 9 | 1 | 2 | 2 | | | 1 | 9 | 24 |
| 2001-2007年 | 5 | 1 | 9 | 7 | | 1 | 1 | 11 | 35 |
| 総　計 | 139 | 10 | 20 | 9 | 0 | 1 | 3 | 43 | 225 |

#### 4.3.2. 「教員の使用言語」

日本語のみ，またはポルトガル語を交えた教え方が主流である．しかし，ポルトガル語多用やポルトガル語のみの授業も見られるようになってきた(表11)．

複数回答のほとんども，日本語を中心にしたものであった．

表11中の「葡語」はブラジルの共通語であるポルトガル語を意味する．

表11　学習開始時期別「教員の使用言語」

| 開始/教語 | 日本語 | 葡語 | 日本語＞葡語 | 葡語＞日本語 | その他 | 無記入 | 複数回答 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | 1 | | | | | | | 1 |
| 1941-50年 | 5 | | | | | | | 5 |
| 1951-60年 | 20 | | 6 | | | | 2 | 28 |
| 1961-70年 | 19 | | 4 | 1 | | | 3 | 27 |
| 1971-80年 | 42 | | 12 | 1 | | | 11 | 66 |
| 1981-90年 | 24 | 1 | 8 | | | | 6 | 39 |
| 1991-2000年 | 9 | | 6 | 4 | | | 5 | 24 |
| 2001-2007年 | 6 | 1 | 14 | 3 | | 1 | 10 | 35 |
| 総　計 | 126 | 2 | 50 | 9 | 0 | 1 | 37 | 225 |

4.3.3.「使用教科書」

国語教科書やコロニア教科書からブラジルで作成された教科書へと使用教科書は変化した（表12）.

複数回答でも，国語教科書と戦後コロニア教科書での学習経験がほとんどであった.

表12 学習開始時期別「使用教科書」

| 開始/教科書 | 日本国語(戦前･戦後) | 戦前コロニア | 戦後コロニア | 伯国学校作成 | 所属校・教員作成 | 不明 | 無記入 | 複数回答 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | 1 | | | | | | | | 1 |
| 1941-50年 | 1 | 1 | | | | | 2 | 1 | 5 |
| 1951-60年 | 8 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 3 | 6 | 28 |
| 1961-70年 | 2 | | 12 | 3 | 1 | 2 | | 7 | 27 |
| 1971-80年 | 10 | | 30 | 2 | 2 | 8 | 1 | 13 | 66 |
| 1981-90年 | 4 | | 9 | 7 | 7 | 3 | 2 | 7 | 39 |
| 1991-2000年 | 3 | | 1 | 2 | 11 | 3 | 1 | 3 | 24 |
| 2001-2007年 | | | 1 | 3 | 28 | 1 | 1 | 1 | 35 |
| 総計 | 29 | 3 | 56 | 18 | 51 | 20 | 10 | 38 | 225 |

4.3.4.「主要養成技能」

言語能力「聞・話」の養成が1970年代から重要視されるようになってきたようだが，主流は「読・書」中心である（表13）.

複数回答は「聞・話」と「読・書」を選択したのが48件，それに「翻訳・通訳」を加えたのが８件だった.

表13 学習開始時期別「主要養成技能」

| 開始/技能 | 読・書 | 聞・話 | 翻訳・通訳 | 学術研究 | その他 | 無記入 | 複数回答 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1931-40年 | 1 | | | | | | | 1 |
| 1941-50年 | 4 | | | | | 1 | | 5 |
| 1951-60年 | 19 | | | | 1 | 1 | 7 | 28 |
| 1961-70年 | 23 | | | | | | 4 | 27 |
| 1971-80年 | 54 | 1 | 1 | | 1 | | 9 | 66 |
| 1981-90年 | 22 | 2 | | | 1 | | 14 | 39 |
| 1991-2000年 | 10 | 3 | | | 1 | 1 | 9 | 24 |
| 2001-2007年 | 13 | 4 | | | | | 18 | 35 |
| 総計 | 146 | 10 | 1 | 0 | 4 | 3 | 61 | 225 |

4.3.5.「今後の課題」

複数回答だったため，複雑な選択肢の組み合わせによる回答結果[15]になった．その組み合わせに類似性は認められず，全体的な特徴を示すことはできなかった．表4は複数回答の組み合わせ[16]数と総件数[17]である．

表14 「今後の課題」複数回答の組み合わせ数と総件数

| 回答選択肢 | 複数回答の組み合わせ数 | 総件数 |
|---|---|---|
| 現状維持 | 18 | 23 |
| 外国語教育としての日本語教育の確立 | 43 | 78 |
| ブラジル独自の日本語教育の確立 | 33 | 38 |
| 効果的なコミュニケーション速成教育 | 44 | 84 |
| 学術研究のための研究者養成 | 21 | 21 |
| 日本人ブラジル移民・日系ブラジル社会の歴史教育 | 41 | 61 |
| 日本事情・日本文化の紹介 | 54 | 102 |
| 就職につながる技術研修 | 43 | 61 |
| 日本的思想の紹介 | 40 | 57 |
| その他 | 7 | 9 |
| 無記入 | 0 | 19 |

この組み合わせ回答数と件数を，学習開始時期別に分けると違いが見られる．学習開始時期は1931年から1960年までの戦後コロニア語教科書が発行される前の時期と，1961年から1990年までの外国語教育が普及する前の時期とに分けた．

1931年から1960年までの学習経験者が挙げたブラジルの日本語教育に対する課題は，組み合わせ回答数が最も多かったのは「日本事情・日本文化の紹介」が最も多く，次に「外国語としての日本語教育の確立」と「日系コロニアの歴史教育」だった．件数では「外国語としての日本語教育確立」が最も多く，「日本事情・文化」，そして「コロニア歴史教育」と同件数で「コミュニケーション（能力）速成」と続いた．

1961年から1990年まで学習経験者が挙げたブラジルの日本語教育の課題は，組み合わせ回答と件数ともに，「日本事情・文化」が最も多く，「コミュニケーション速成」，そして「外国語としての日本語教育確立」となった．「コロニア歴史教育」は「就職につながる技術研修」と共に，その次点になった．

## 5. 考察

調査結果から教科書使用の実態と学習者における教育方針の認識について考察する．

まず，教科書の変化について考察する．1961年から発行されたという（戦後）コロニア教科書は，調査結果では1950年代に使用したという回答があるものの，1960年代から1980年代までは主な日本語教科書だった．当時は日本の国語教科書も使用されていたが，ブラジルの日本語学校や教員によって教科書も使用されるようになっていた．すでに日本の国語教科書を日本語だけで日系人児童に学習させるのには無理があったので新たな教科書が作成されたとも，学習者が三世になる前に日系ブラジル人としての意識付けを進めようとしたとも考えることができる．そして，1970年代から三世の増加につれて，従来の「読・書」能力の養成と共に「聞・話」能力の養成が目指され，ポルトガル語も教室で使用されるようになる．すると，今まで以上に機能的な外国語教育としての日本語教育の教科書が作成・使用されるようになるのである．

次に，学習経験者が「日系ブラジル人」のための日本語教育から「ブラジル人」のための日本語教育への方針転換を必要だと考えていたかどうかを考察する．戦後，1931年から1960年まで日本の国語教科書で日本語を学習していた人たちは，外国語としての日本語教育と日本に関する知識に加えて，日系コロニアの歴史教育を必要だと考えていた．一方，1961年から1990年までコロニア教科書で日本語を学習した人たちは，外国語としての日本語教育と日本に関する知識が必要だと考えていたという点は1960年までの学習経験者と同じだが，コロニアの歴史教育よりもコミュニケーション能力の向上が必要だと考えるようになっていた．1960年までの学習経験者も1961年からの学習経験者も教育内容の課題は学習経験時期の後の教育方針の変更に同調する考えであったことになる．コロニア教科書によって日系ブラジル人養成教育が本格化する前に日本の国語教科書で日本語を学習した経験者は日系人意識をすでに持ち合わせ，日系人養成教育が進められた時期に学習した経験者は機能的な外国語教育が必要だと感じていたのである．

移住者は，定住・同化の過程において「世代間で継承される帰属集団での文化的知識の習得(enculturation)」と「異文化との接触によって自文化の変容を伴う文化適応（acculturation)」に対応することになる（森田2005,81）．ブラジルにおける永住を決意した日本人移住者は日本語教育によって日系人二世たちに日系コロニアの「文化知識の習得」を要望し，移住者自身もコロニア教科書の作成や日系ブラジル人養成運動によってブラジルへの「文化適応」を試行していた．ブラジルの日本語教育は，ブラジル永住者の日本人移住者とブラジル生まれの日系ブラジル人二世たちによる相互理解をめざした日系コロニア文化の創造のための共同作業だったと言えるだろう．

## 6. 結論と今後の課題

本研究では教育者側からしか語られていなかったブラジルの日本語教育の実態を，学習経験者側から分析した．

その結果，日本人永住者が日本語教育の方針を日本人児童としての教育から日系ブラジル人としての教育へと変化させる中で，日本語学習経験者も学習時期の後の教育方針転換と同様の問題意識を持っていることが明らかになった．日系人養成教育以前の学習経験者は日本語教育方法の改善と日系コロニアへの理解教育を望み，日系人養成教育を受けた学習経験者は日本語教育方法の改善と日本理解教育を望んでいた．その後，ブラジルの日本語教育は現在の外国語としての日本語教育に変容してきた．しかし，ブラジルの日本語教育は伝統的な日本語学校による日系人児童に対する「読・書」能力の養成を図る日本語教育が引き継がれている．現在の学習者は学習環境にどのような変化を望み，今後ブラジルの日本語教育はどのように変化していくのだろうか．また，ポルトガル語を母語としながら日本に移住し，長期滞在する日系ブラジル人はブラジルにおける日本人移民の一世紀の変化を自身の問題解決に生かすことができるのだろうか．

本研究では，国際交流基金日本語国際センター（2000）が「ブラジルの日本語教育に求められている課題」としている「継承語教育から外国語教育への転換」とは，伝統的な日本語学校が主体となる外国語能力養成と日本への理解を目指したブラジル人のための日本語教育への転換だと具象化できる．児童教育における問題解決方法は学習者児童自身の問題意識にあるのかもしれない．

最後に，本調査結果は，日系ブラジル社会事情の複雑さから，回答方法を複数回答にせざるをえなくなり，信頼性が高い結果だったとは言えない．今後は，適切な質問内容と単数回答の質問紙によって調査の信頼性を向上させた再調査によって本研究内容を確認する必要がある．

## 注

(1)「colônia」は本来「植民地・入植地」の意味である．

(2) 中島（2002）は，バイリンガル教育の形態としてFishman（1976）が示した「partial bilingualism」を「部分的バイリンガリズム」とし，日系ブラジル社会の日本語学校における日本語教育はこれに当たる「日本語の読み書きはある程度できるが，日本語で他教科の学習はしないため学習言語としての日本語が十分育たない『継承語教育』」と位置付けた（中島2002, 15）．

(3) ブラジルの日本語学校とは日本人会などによる「公共団体経営」の学校が60.4%（139校中84校），（寺子屋式）私塾が33.8%（139校中47校）で，そのほとんどはこのかたちをとる．これは，日本人が移住を始めた当時の日本人移住地におけるブラジルの小学校建設や教員派遣が不十分だったことが関係している．ブラジルでは，1911年にブラジル連邦政府がようやく教育局を設置し初等教育の普及を始めたばかりで，サンパウロ州のみが義務教育であるという状況だった（高岡1925, 326-29）．

(4) ブラジル全地域の321校を対象としたが，回答結果が得られたのは139校である．

(5) ブラジルの日本語学校の学習者は初等・中等教育段階の児童生徒が多いため，学習者をしばしば「生徒」と呼ぶ．

(6) 立地条件別に，大都市2,000世帯と近郊農村140世帯，地方都市1,000世帯，奥地農村190世帯の合計が対象で，都市部よりも農村部が日本語学校通学率は高い傾向だった．

(7) 戦前移住者数13万人と戦後移住者数12万人を基数として，ブラジルの人口増加率2.16%を第二・第三世代に掛け合わせた数116.64（万人）に，第一世代（戦前移住者）数を引き，第四世代の増加数を加えた試算でも近似値になる．ブラジル国民の人口増加率2.16%は下記の参考URL国連事務局社会経済省人口部（2008）によった．

| 人口増加率／年 | 1950-1955 | 1955-1960 | 1960-1965 | 1965-1970 |
|---|---|---|---|---|
| 人口増加率（%） | 3.06 | 2.91 | 2.96 | 2.59 |
| 人口増加率／年 | 1970-1975 | 1975-1980 | 1980-1985 | 1985-1990 |
| 人口増加率（%） | 2.38 | 2.35 | 2.26 | 1.88 |
| 人口増加率／年 | 1990-1995 | 1995-2000 | 2000-2005 | 2005-2010 |
| 人口増加率（%） | 1.56 | 1.49 | 1.32 | 0.98 |

Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, *World Population Prospects:* The 2008 Revision, http://esa.un.org/unpp, Monday, December 07, 2009; 2:07:46 AM.

(8) 同上「2005年度ブラジル国人口」による．

(9) 以下，第二次世界大戦前の移住者を「戦前一世」，戦後移住者を「戦後一世」とする．

(10) 依頼機関のコンピュータに質問紙ファイルをコピー保存した依頼もあった．

(11) 有効回答率＝有効回答数225件÷全回答数313件

(12) サンパウロ州外からと電子メール回答には，現住所欄に地域名が記されていた．

(13) ブラジルの日系人は日本人移住者を，ブラジルへの帰化の有無にかかわらず，「一世」と呼ぶ．第二次世界大戦前の日本人移住者は「戦前一世」，戦後の移住者は「戦後一世」，そして「二世」「三世」という慣習に従って世代区分をした．

(14) 文献には「日本人小学校」「日語学校」などと記されているが，質問紙では「日語学校」を用いた．

(15) 例えば，「１・２」「２・４・６」「３・４・７・８」などの複数回答

(16) 単数回答も要素の一つとして計上されている．

(17) 複数回答の場合，選択肢同士がそれぞれの回答数にそれぞれ計上されている．

## 参考文献


ブラジル日系人実態調査委員会（1964），『ブラジルの日本移民　記述篇』，東京大学出版会．

Fishman, J. (1976), Bilingual Education：What and Why？, J.E. Atlas and Twaddell, K. eds., *English as a second language in bilingual education*, Washington DC, TESOL.

国際交流基金日本語国際センター（2000），『海外の日本語教育の現状　日本語教育機関調査・1998年　概要』，国際交流基金日本語国際センター．

小島勝（2002），第二次大戦前のブラジルにおける日本人子弟教育の実際　―質問紙調査にもとづいて―，『龍谷大學論集』459，龍谷学会，42 - 67.

前山隆（1996），『エスニシティとブラジル日系人　文化人類学的研究』，御茶の水書房．

森幸一（2006），ブラジルの日本人と日本語（教育），『国文学　解釈と鑑賞』71-7,至文堂,6-47.

森田京子（2005），エスノグラフィー，『教育研究ハンドブック』，世界思想社，80-91.

森脇礼之，中田みちよ（2008），『ブラジルにおける日本語教育史　その変遷と近年の動向』，Campinas, Universida Estadual de Campinas.

中島和子（2002），『バイリンガル教育の方法　12歳までに親と教師ができること』，アルク．

中東靖恵（2007），ブラジルにおける日本語教育の新たな潮流　―ブラジル社会に開かれた日本語教育へ―，『岡山大学文学部紀要』47，岡山大学文

学部，85-98.
サンパウロ人文科学研究所（1997），『報告書　ブラジル日系社会における日本語教育　現状と課題』，サンパウロ人文科学研究所.
サンパウロ人文科学研究所（2002），『日系社会実態調査報告書』，サンパウロ人文科学研究所.
高岡熊雄（1925），『ブラジル移民研究』，宝文館.

## 参考URL

Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, *World Population Prospects*：The 2008 Revision, http：//esa.un.org/unpp, Monday, December 07, 2009; 2：07：46 AM.

## 参考資料１「アンケート調査票」〈日本語版〉

性別（ 男 ・ 女 ）／年齢（ 歳）／職業（ ）
現住国・州・市・町・村（ ）

1. あなたは日系何世ですか.
   1．戦前一世　2．戦後一世　3．二世　4．三世以上　5．知らない
2. あなたのご両親は日系何世ですか.
   父親：
   1．日本人　2．帰化一世　3．二世　4．三世以上　5．知らない
   6．非日系ブラジル人
   母親：
   1．日本人　2．帰化一世　3．二世　4．三世以上　5．知らない
   6．非日系ブラジル人
3. あなたの日常使用言語は何ですか.
   1．ポルトガル語　2．日本語(共通) 3．日本語(方言) 4．他言語（ ）
4. あなたがご家族とコミュニケーションをとる言語は何ですか.
   祖父母：
   1．ポルトガル語　2．日本語(共通) 3．日本語(方言) 4．他言語（ ）
   父親：
   1．ポルトガル語　2．日本語(共通) 3．日本語(方言) 4．他言語（ ）
   母親：
   1．ポルトガル語　2．日本語(共通) 3．日本語(方言) 4．他言語（ ）
   兄弟・姉妹：
   1．ポルトガル語　2．日本語(共通) 3．日本語(方言) 4．他言語（ ）
   息子・娘：
   1．ポルトガル語　2．日本語(共通) 3．日本語(方言) 4．他言語（ ）
   孫：
   1．ポルトガル語　2．日本語(共通) 3．日本語(方言) 4．他言語（ ）

5. あなたは日本語教育機関で日本語を学習したことがありますか.
   1．ある（6.-16.へ）2．ない（17.へ）
   ＊ 最後に項目 18.の回答をお願いします.

＜質問 5.で「1．ある」の方＞
6. どんな教育機関で学習しましたか.
   1．大学・大学院　2．高等学校　3．小学校・中学校
   4．日本語学校・私塾　5．日本
   6．その他⇒（機関所在地・機関名：　）
7. いつ学習を始めましたか.
   1．1908-20 年　2．1921-30 年　3．1931-40 年　4．1941-50 年
   5．1951-60 年　6．1961-70 年　7．1971-80 年　8．1981-90 年
   9．1991-2000 年　10．2001-2007 年
8. どのくらい学習しましたか.
   1．半年以下　2．半年以上一年未満　3．一年以上二年未満
   4．二年以上三年未満　5．三年以上　6．現在学習中（　年）
9. 教師はどんな人でしたか.（複数回答可能）
   1．日本人　2．ブラジル帰化日本人　3．日系ブラジル人二世
   4．日系ブラジル人三世以上　5．非日系ブラジル人
   6．その他外国人（国籍：　）
10. 教師の年齢はどうでしたか.（複数回答可能）
   1．二十歳代　2．三十歳代　3．四十歳代
   4．五十歳代　5．六十歳代以上
11. 教師の使用言語は何でしたか.（複数回答可能）
   1．日本語　2．ポルトガル語　3．多くの日本語と少しのポルトガル語
   4．多くのポルトガル語と少しの日本語　5．その他（　）
12. 授業時間は何時間でしたか.（複数回答可能）
   1．一ヶ月に１～６時間　2．一週間に１～４時間　3．一週間に４～８時間
   4．一週間に８～12 時間　5．一週間に 13 時間以上　6．毎日
13. クラスはどうでしたか.（複数回答可能）
   1．入門クラス(150 時間程度)　2．初級クラス(300 時間程度)
   3．中級クラス(600 時間程度)　4．上級クラス(900 時間程度)
   5．専門課程の講義　6．複式授業
14. 教科書は何でしたか.（複数回答可能）
   1．日本の国語教科書（戦前国定・戦後検定）
   2．コロニア版教科書『日本語読本』
   3．コロニア版教科書『ニッポンゴ／にっぽんご／日本語』
   4．ブラジルの他教育機関の日本語教科書
   5．教育機関・教師作成のオリジナル教科書

15. 学習の中心技能は何でしたか.
   1．読み・書き　2．聞き・話し　3．翻訳・通訳
   4．学術研究　5．その他（　）
16. 学習効果はどうでしたか.
   1．たいへん良かった　2．まあまあ良かった　3．良かった
   4．あまり良くなかった　5．良くなかった

＜質問 5.で「2．ない」の方＞
17. 日本語を学習するなら，目的は何ですか.
   1．外国語・外国文化理解　2．日系人・日本人とのコミュニケーション
   3．学術研究　4．技術習得　5．趣味・興味
   6．その他（　）

＜全員＞
18. これからのブラジルの日本語教育に必要なことは何だと思いますか.（複数回答可能）
   1．現状維持　2．外国語教育としての日本語教育の確立
   3．ブラジル独自の日本語教育の確立　4．効果的なコミュニケーション速成教育
   5．学術研究のための研究者養成
   6．日本人ブラジル移民・日系ブラジル社会の歴史教育
   7．日本事情・日本文化の紹介　8．就職につながる技術研修
   9．日本的思想の紹介　10．その他（　）

## 参考資料２「アンケート調査票」〈ポルトガル語版〉

Sexo ( masculino / feminino )　Idade (_____anos)　Profissão(_____)

País / estado ou província / cidade / bairro / vila onde reside atualmente (_____)

1. Qual é a sua geração de descendência japonesa?
   1. Primeira geração antes da Segunda Guerra Mundial
   2. Primeira geração após a Segunda Guerra Mundial
   3. Segunda geração
   4. Acima da terceira geração
   5. Não sei
2. Qual é a geração de descendência japonesa de seus pais?
   Pai:
   1. Japonesa　2. Naturalizada japonesa
   3. Segunda geração　4. Acima da terceira geração
   5. Não sei　6. Brasileira sem descendência japonesa
   Mãe:
   1. Japonesa　2. Naturalizada japonesa
   3. Segunda geração　4. Acima da terceira geração
   5. Não sei　6. Brasileira sem descendência japonesa
3. Qual é o idioma que você utiliza diariamente?
   1. Português　2. Japonês (padrão)　3. Japonês (dialeto)
   4. Outras línguas(　)
4. Com qual idioma você se comunica com a sua família?
   Avós:
   1. Português　2. Japonês (padrão)　3. Japonês (dialeto)
   4. Outras línguas(　)
   Pai:
   1. Português　2. Japonês (padrão)　3. Japonês (dialeto)
   4. Outras línguas(　)
   Mãe:
   1. Português　2. Japonês (padrão)　3. Japonês (dialeto)
   4. Outras línguas(　)

Irmãos / Irmãs:
1. Português 2. Japonês (padrão) 3. Japonês (dialeto)
4. Outras línguas( )
Filhos / Filhas:
1. Português 2. Japonês (padrão) 3. Japonês (dialeto)
4. Outras línguas( )
Netos:
1. Português 2. Japonês (padrão) 3. Japonês (dialeto)
4. Outras línguas( )

5. **Você já estudou japonês em alguma instituição educacional de língua japonesa?**
1. Sim (Para as pessoas que responderam sim, respondam as questões de 6 a16)
2. Não (Para as pessoas que responderam não, passem para a questão 17)
* No final, peço a TODOS que respondam o item 18.

< Perguntas para as pessoas que responderam "1. Sim" na questão 5. >

6. **Em que tipo de instituição educacional você estudou japonês?**
1. Universidade / Pós-Graduação 2. Ensino Médio
3. Ensino Fundamental 4. Escola de língua japonesa / escola particular
5. No Japão
6. Outros (inclui auto-didatas) ( Local / Nome da instituição: )

7. **Quando você começou estudar a língua japonesa?**
1. 1908-1920 2. 1921-1930 3. 1931-1940 4. 1941-1950
5. 1951-1960 6. 1961-1970 7. 1971-1980 8. 1981-1990
9. 1991-2000 10. 2001-2007

8. **Quanto tempo você estudou a língua japonesa?**
1. Menos de meio ano 2. Mais de meio ano e menos de um ano
3. Mais de um ano e menos de dois anos
4. Mais de dois anos e menos de três anos
5. Mais de três anos 6. Estou estudando há (___ano(s)___mês(es) )

9. **Qual é (era) a geração de descendência japonesa de seu professor? (Questão de múltipla escolha: As pessoas que tiveram mais de um professor, com nacionalidades ou gerações diferentes, assinalar a opção correspondente a cada professor.)**
1. Japonês 2. Japonês com naturalização brasileira
3. Segunda geração 4. Acima da terceira geração
5. Brasileiro sem descendência japonesa
6. Outros (nacionalidade:_____)

10. **Qual é (era) a idade de seu professor? (Questão de múltipla escolha: As pessoas que tiveram mais de um professor, com idades diferentes, assinale a opção correspondente a cada professor.)**
1. Na faixa etária dos 20 anos 2. Na faixa etária dos 30 anos
3. Na faixa etária dos 40 anos 4. Na faixa etária dos 50 anos
5. Acima da faixa etária dos 60 anos

11. **Qual é o idioma que o seu professor utiliza (utilizava)? (Questão de múltipla escolha: As pessoas que tiveram mais de um professor que utilizavam idiomas diferentes, assinale a opção correspondente a cada professor.)**
1. Japonês 2. Português 3. Muito japonês e pouco português
4. Muito português e pouco japonês 5. Outros ( )

12. **De quantas horas é (era) a aula? (Questão de múltipla escolha: As pessoas que participaram em mais de uma turma, com duração da aula diferente, assinale a opção correspondente a cada turma.)**
1. 1 a 6 horas por mês 2. 1 a 4 horas por semana
3. 4 a 8 horas por semana 4. 8 a 12 horas por semana
5. Acima de 13 horas por semana 6. Diariamente

13. **Qual é (era) o seu curso? (Questão de múltipla escolha: As pessoas que participaram em mais de um curso, assinale a opção correspondente a cada curso.)**
1. Curso de introdução a língua japonesa (até 150 horas de estudo)
2. Curso para iniciantes (até 300 horas de estudo)
3. Curso intermediário (até 600 horas de estudo)
4. Curso avançado (até 900 horas de estudo)
5. Curso especializado
6. Curso com turmas mistas

14. **Qual é o livro didático que você utiliza (utilizou)? (Questão de múltipla escolha: As pessoas que utilizaram mais de um livro didático, assinale a opção correspondente a cada livro.)**
1. Livro didático de língua japonesa do Japão (Aprovado pelo Governo, Pré Guerra / Autorizado Pós Guerra)
2. Livro didático de edição da COLÔNIA "NIHONGO-TOKUHON" (antes da Segunda Guerra Mundial)
3. Livro didático de edição da COLÔNIA "NIPPON-GO" (após Segunda Guerra Mundial)
4. Livro didático em japonês editado por outra instituição educacional do Brasil
5. Livro didático original feito pela própria escola ou pelo professor
6. Não sei

15. **Qual é (era) o principal foco da aula?**
1. Leitura e Escrita 2. Audição e Conversação
3. Tradução e Interpretação 4. Pesquisa científica
5.Outros( )

16. **Qual é (foi) o resultado que obteve dos estudos?**
1. Excelente 2. Ótimo 3. Bom 4. Não foi muito bom 5. Ruim

< Questionário para as pessoas que responderam "1. Não" na questão 5. >

17. **Se for para estudar a língua japonesa, para qual finalidade você estudaria?**
1. Compreensão da língua estrangeira ou compreensão cultural estrangeira
2. Para comunicar-se com nipo-brasileiros (Nikkei) / japoneses
3. Pesquisa científica
4. Licença técnica
5. Hobby / interesse
6. Outros ( )

< Para todas as pessoas que estão respondendo este questionário>

18. **Daqui para frente, o que você acha necessário para o ensino da língua japonesa no Brasil? (múltipla escolha)**
1. Manter a situação atual
2. Estabelecer o ensino da língua japonesa como ensino de língua estrangeira
3. Estabelecer um ensino de língua japonesa próprio do Brasil
4. Um eficiente ensino para desenvolver uma comunicação rápida
5. Treinamento de pesquisadores para pesquisas científicas
6. Ensino sobre a imigração dos japoneses ao Brasil e sobre o histórico da sociedade nipo-brasileira
7. Introdução sobre a situação atual do Japão / introdução da cultura japonesa
8. Treinamentos técnicos relacionados ao emprego (trabalho)
9. Introdução sobre os valores peculiares dos japoneses
10. Outros( )

# Abstract

## The Historical Changes in Japanese Language Teaching for Brazilian-Japanese in Brazil: Results from Questionnaires to Brazilian-Japanese Who Experienced Learning Japanese

Yasuhiro ISHIMINE
Graduate Student
Graduate School for International Development and Cooperation
Hiroshima University
1-5-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8525 Japan
E-mail: ishimine-yasuhiro@hiroshima-u.ac.jp

This study focuses on the changes in educational concept for the descendent generations of immigrants. Until now, changes to educational concepts in Japanese language teaching to Brazilian-Japanese have only been observed through the perspective of the educators. The purpose of this study is to clarify these changes through the perspectives of two sides: That of the educators, and that of the learners, who accepted these changes.

Japanese-language teaching in Brazil has been changed by Japanese immigrants in past 100 years. At First, it was changed from education for young Japanese immigrants to heritage language teaching for Brazilian-Japanese after World War II. Secondly, the teaching concept was changed from Japanese teaching as a heritage language to Japanese teaching as a foreign language.

Research results show that Brazilian-Japanese who experienced learning Japanese prior to the changes were hoping for the same changes mentioned in the two stages above. This study clarified that Brazilian-Japanese in Brazil also had the awareness of the issues on the educator's side before the changes of educational concepts.

At the present time, many Brazilian-Japanese live with their families in Japan. They also have the same problems about learning language as their former generations.